
現代妖怪記

聖?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現代妖怪記

【Nコード】

N2484P

【作者名】

聖？

【あらすじ】

ちよつと変わった主人公とその友達が不可思議な現象に巻き込まれていくお話。

誰にも絶対に無いとは言えないような事や嘘だろ?!て事まで。

警告

警告

現代、自然への人間の進出が拡大し街中は夜でも明るくなり、妖怪と言う物の怪の住みにくい時代となりつつある。

だが、決して決して彼ら《ようかい》は消え去ったりしたのではないという事を覚えていてほしい。

俺の名は御神健二^{みかみけんじ}、そして隣にいるのは長谷山涼子^{はせやまりょうこ}、2人ともどこにでもいるごく普通の中学生だ。いや、俺はごく普通ではないかもしれない。なぜなら俺には変な声を聞くということが多々あるからだ。人が俺を呼ぼうとしたときに返事を先にしてみたり、誰もいないはずの部屋で人の声を聞いたり……。まあ、俺の中では空耳^{そらみみ}ということにしてある。

そしてこれから記す物語は・・・単なる絵空事^{えそらごと}と受け取るかどうかはあなた次第である。

不思議山 その1

不思議山、地元でも有名な観光スポットである。誰がそう呼んだかはさだかではないのだが元々は違う名前だったらしい。木々が生い茂りその間を全長12kmというハイキングコースが通っている。

俺と涼子はこの場所に夏休みの自由研究のためにここに来ている、大して珍しい場所でもなく、この暑い中わざわざ来る事もないような場所に。

黙々と山の頂上を目指していた。登山口から半分も進んだ頃だろうか。

「こつち、こつちだよ」

なにやら声が聞こえてくる。

聞こえた方向をふと見ると、案内にもない小さな道があった。

涼子は不思議そうな顔をしつつ、こつちを見ている。

涼子「どうしたの？」

健二「いや、今なんか声が聞こえたる？」

すると涼子は不思議そうな顔をしつつこつちを見ている。

健二「行ってみようぜ」

と言い放つとすぐに奥へ進んでいった。

涼子の静止を押しかけて……

不思議山 その2

健二はその獣道なのか？とも思えるような道をどんどん進んでいった。

涼子「ちょっとまってよー!!」

涼子は静止しながらもゆっくりとついてくる。

女の子の足ではとてもじゃないが同じ速度ではついていけないがそれでも一生懸命歩いている。健二はそんな涼子を気にもとめずに進んでいる。

健二「お、なんかあるぞ」

健二の言うように目の前には小さな祠ほらがある。

もう何十年とほったらかしにされたであろうその祠は扉や屋根が朽ち果てている。

涼子「なんか、気味が悪いわね・・・」

そう言いつつも二人はその祠に近づいていった。

健二は中を覗いてるが、涼子は少し手前で止まっている。

健二「見ろよ、中に何かある」

健二は手招きして涼子を呼ぶがそれでもなかなか近づこうとしない。そんな涼子を気にしつつも健二は祠の中の様子をうかがっている。中に入ったのは木でできた小さな箱が一つだけだった。

よく見てみると箱の上にはかすかに読み取れる字で「封」と書いて

ある。

「年代物なのか？」と言うくらい古そうなその箱をおそるおそる開けてみた。

すると、中に入ったのは小さな冊子とその横に何か置いてあったであろうスペースであった。

その冊子は古いからか開きもせず、題名が書いてあったであろう場所もひどく黄ばんでいて、消えてしまっている。

やっと涼子がこっちにきた。

涼子「御神体じゃないよね……」

健二「多分ね。」

2人は顔を見合わせると、健二は何を思ったのか持ってきたリュックにその冊子を入れてしまった。

涼子「やめなさいよ」

健二「いいじゃん、御神体でも無いだろうし忘れ去られてるんだろうからたいした物じゃないんだろうしさ」

涼子「何かあっても知らないんだから。」

そう言うと涼子はそっぽを向いてしまった。

健二「ここに長居するのなんだし行きますか」

そして2人は元のハイキングコースに戻って行った。

不思議山 その2（後書き）

ここまでが序章なのですが、これからどんな不可思議な事が起こるのか乞うご期待。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2484p/>

現代妖怪記

2010年12月10日23時21分発行